

平成 27 年 5 月 3 日 更新

「モデリングー広い視野を求めて（初版 1 刷）」（近代科学社）の補足と訂正

- 27 頁 -5 行：  $Ak \implies A_k$
- 33 頁 -4 行： Likelihoood  $\implies$  Likelihood
- 113 頁 5 行： No.2, 2005.  $\implies$  No.2, pp.102-106, 2005.
- 113 頁 6 行： et at.  $\implies$  et al.
- 185 頁 「おわりに」

第 2 段落では、モデルと人間の関係性の変容について、物理現象と社会現象のモデルにおける精緻性・検証可能性の相違に着目して述べようと意図しております。しかし、表現にいたらないところがあり、誤解を招く可能性がありましたので、編者 3 人で相談の上、増刷時に以下のように修正致します。

---

それに対し、21 世紀は「モデルが人間を操作する危うさを伴った時代」であるといえる。20 世紀の科学技術の大きな成功、そして、計算機・センサー・ネットワークの目覚ましい進歩ゆえに、モデリングの適用範囲は拡大し、金融やマーケティング、社会システム、経済等、検証が困難な現象について「モデル」が構築されるようになった。電子回路モデルの精緻さに比較して、これらの社会現象モデルの、扱う現象の複雑さに比する荒っぽさは驚くべきものであるが、それが、すでに社会を動かしていく大きな力となっていることもまた事実である。これが「モデルが人間を操作する」と上で述べたことである。

---

(以上)